

# 平成22年度病害虫発生予察注意報第3号

平成22年6月24日

鳥取県病害虫防除所

## 注意報の概要

カメムシ類の発生が多く、果実被害の発生が懸念される。今後、気温が高まるにつれてカメムシ類の活動が活発になることが予想されるため、防除を徹底する必要がある。

## 病害虫名：果樹カメムシ類

- 1 対象作物 果樹全般
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生時期 平年並
- 4 発生量 多い
- 5 注意報発令の根拠

(1) 主な加害種であるチャバネアオカメムシ、クサギカメムシは、予察灯及び集合フェロモントラップにおける誘殺数が6月中旬に急激に増加し、平年と比較して多くなった(表1-1、表1-2及び表2)。また、カメムシ類の被害が多発した平成16年並に誘殺数が多い地点が認められており、果樹園への多飛来及び果実被害が懸念される。

(2) 向こう1か月の気象予報によると、今後の気温は高く、カメムシ類の活動に好適な条件になる見込みであり、夜温が高まるにつれてカメムシ類の活動が活発になり、果樹園への飛来が予想される。

## 6 防除上注意すべき事項

(1) 被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う(ネオニコチノイド系及び合成ピレスロイド系殺虫剤などを中心に選択)。特に、過去の多発年に早期被害を受けた地域では注意する。また、地域内で情報の共有を徹底する。

(2) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方が早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件の時は夕方散布を実施しない。また、移動性が高いため、広域的な防除に努める。

(3) 例年、第1世代成虫が発生する7月下旬頃が果樹園への飛来量が増加する時期となるが、多発生年の場合、7月上旬頃から果樹園への飛来量が増加した事例があるので注意する。

(4) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。

(5) 各樹種の防除薬剤は表3を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布業者等の安全の確保に努める。

表1 1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町		鳥取市河原町		湯梨浜町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
5月計	235	301.9	53	55.3	59	3.7	81	94.4
6・上	6	17.0	4	10.7	11	1.4	15	4.3
6・中	365	132.9	154	25.0	258	6.7	136	30.6
6・下		141.4		63.2		9.7		38.7

\*平年：平成12～21年

表1-2 予察灯におけるクサギカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町		鳥取市河原町		湯梨浜町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
5月計	4	20.9	20	33.8	0	0.1	0	1.5
6・上	0	1.8	0	1.2	0	0.0	0	0.1
6・中	165	12.5	6	2.0	7	0.1	3	0.4
6・下		12.4		6.6		0.3		2.0

\*平年：平成12～21年

表2 集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺数(頭)

月・旬	八頭町				北栄町	
	*		*		本年	平年***
	本年	平年**	本年	平年**		
5月計	89	80.6	69	40.6	108	53.6
6・上	13	12.2	23	15.2	27	14.8
6・中	11	33.5	160	53.0	63	16.8
6・下		48.4		73.5		12.7

\* ... はヒノキ林内、 は と果樹園との中間点の水田畦畔に設置。

\*\* ...平年：平成12～21年

\*\*\* ...平年：平成15～21年

表3 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準\*

作物	薬剤名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	薬剤の系統
ナシ	スプラサイド水和剤	1,500	有袋：収穫7日前まで 無袋：収穫45日前まで	3回以内 2回以内	有機リン系
	スミチオン乳剤	1,000	有袋：収穫14日前まで 無袋：収穫21日前まで	6回以内	
	ジノテフラン水溶剤 (アルパ <sup>®</sup> リン顆粒水溶剤又は スタークル <sup>®</sup> 顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド <sup>®</sup> 系
	アクトラ <sup>®</sup> 顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	合成ピレスロイド <sup>®</sup> 系
	アグロスリン水和剤	1,000 ～ 2,000	収穫前日まで	3回以内	
	MR・ジョーカー水和 剤	2,000	収穫14日前まで	2回以内	
カキ	スミチオン水和剤 40	800 ～ 1,000	収穫45日前まで	3回以内	有機リン系
	ジノテフラン水溶剤 (アルパ <sup>®</sup> リン顆粒水溶剤又は スタークル <sup>®</sup> 顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド <sup>®</sup> 系
	アグロスリン水和剤	1,000 ～ 2,000	収穫前日まで	3回以内	合成ピレスロイド <sup>®</sup> 系
リンゴ	スミチオン水和剤 40	800 ～ 1,000	収穫30日前まで	3回以内	有機リン系
	ジノテフラン水溶剤 (アルパ <sup>®</sup> リン顆粒水溶剤又は スタークル <sup>®</sup> 顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド <sup>®</sup> 系
	MR・ジョーカー水和 剤	2,000	収穫14日前まで	2回以内	合成ピレスロイド <sup>®</sup> 系
モモ	スミチオン水和剤 40	800 ～ 1,000	収穫3日前まで	6回以内	有機リン系
	ジノテフラン水溶剤 (アルパ <sup>®</sup> リン顆粒水溶剤又は スタークル <sup>®</sup> 顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネオニコチノイド <sup>®</sup> 系
	アグロスリン水和剤	2,000	収穫7日前まで	5回以内	合成ピレスロイド <sup>®</sup> 系

\*農薬の登録内容は平成22年6月10日現在